

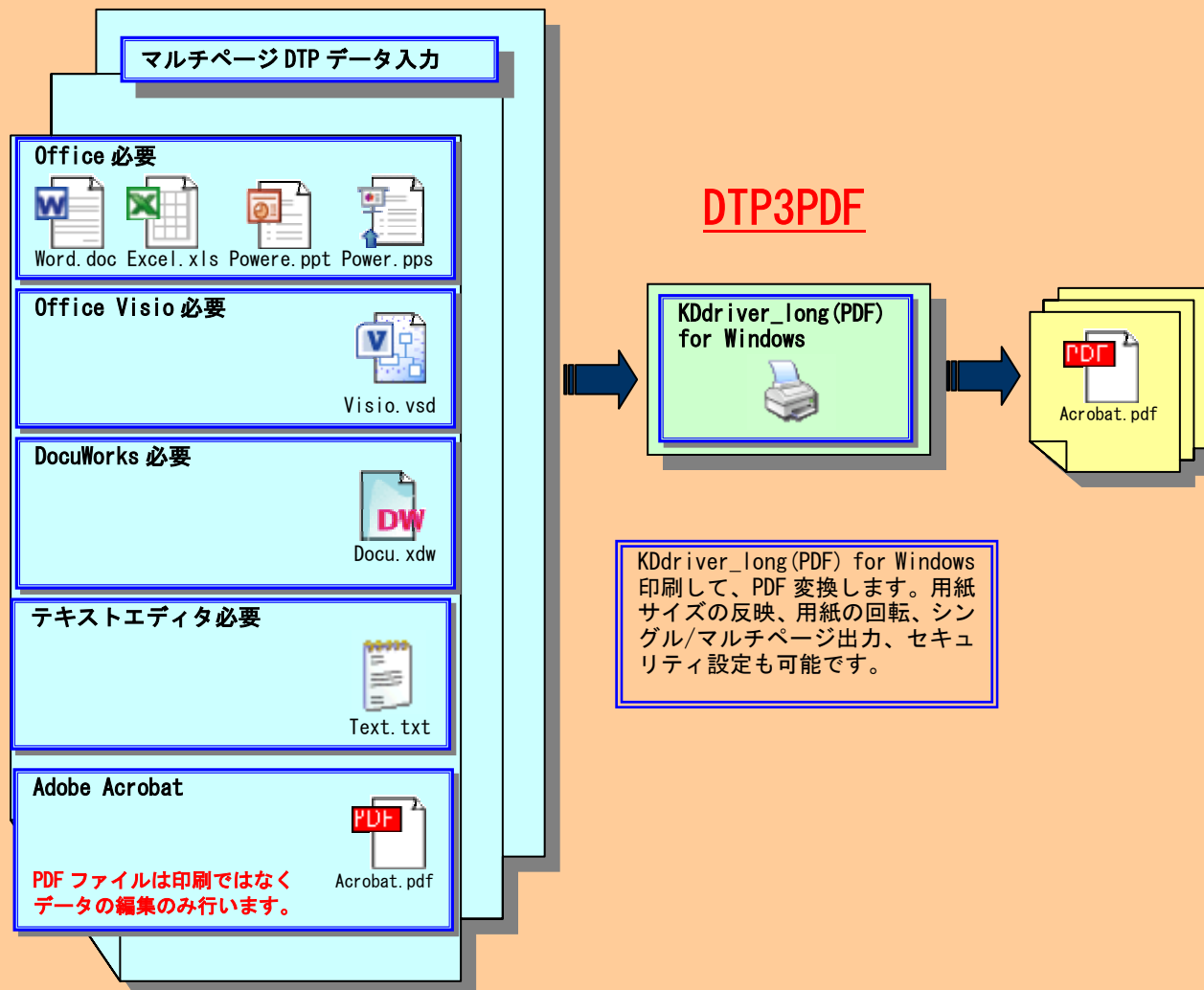
DTP製品と一体型データ変換ソフト



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

DTP 各種のデータを KDdriver_long(PDF) for Windows で印刷することで、PDF データに変換します。



◆概要

各種 DTP データを必要なファイルフォーマット (PDF) へ変換します。

入力対応 DTP データ

アプリケーション	対応バージョン	ファイル種類(拡張子)
Microsoft Office Word	2000/XP/2003/2007/2010	doc, rtf, dot, txt, docx, dotx, docm, dotm
Microsoft Office Excel	2000/XP/2003/2007/2010	xls, xlw, xjs, csv, xlt, xlsx, xltx, xlsx, xltm
Microsoft Office PowerPoint	2000/XP/2003/2007/2010	ppt, pps, pot, pptx, potx, pptm, potm
Microsoft Office Project	2002/2003/2007/2010	mpp, mpt
Microsoft Office Visio	2000/2002/2003/2007/2010	vsd, vss, vst
DocuWorks (FujiXerox)	5.0/6.0/6.2/7.0/7.1/7.2	xdw
標準ブラウザ(印刷機能が必要)		html, xml

※上記バージョン以外のファイルについては正式に対応していません。

◆特長

- ・ Windows プリンタドライバ(弊社製品 KDdriver_long(PDF) for Windows)を経由することによって、高品質な変換結果を得ることができます。
- ・ コマンドライン形式(DOS 操作)と GUI 形式(画面操作)の双方をサポートしたアプリケーションになっており、一つの製品で両形式使用することができます。システムへの組み込みや、標準機能としてバッチファイルを利用したディレクトリ単位の一括変換が可能です。
- ・ オプション製品と組み合わせることによって指定フォルダにデータを送るだけであらかじめ設定された DTP データから PDF データへ自動的に変換を行う自動監視付き変換等が可能です。
- ・ Adobe Acrobat を使用しないため、Adobe Acrobat のライセンスが不要です。

◆注意事項

- ・ アプリケーションの印刷機能を利用してファイルを作成するため、変換するファイルに対応するアプリケーションが必要になります。
- ・ 出力に関するデータ処理はすべてアプリケーションに依存します。Microsoft Office でマクロ命令を利用して画面にダイアログメッセージを出力し停止するような場合や、セキュリティ機能によりパスワードを求めるダイアログメッセージを出力し停止するようなデータ等は、変換ソフトもその時点で停止するので注意していただく必要があります。
- ・ DTP 製品と一体型ソフトは WindowsOS の種類によって別製品になります。WindowsOS ごとにプログラムが異なるため、ユーザーがインストールする環境の OS に合った製品を購入していただく必要があります。

◆製品構成

製品名	概要	定価 (税抜き)
DTP3PDF	各種 DTP データを KDriver_long(PDF) for Windows を利用して PDF ファイルへ変換します。	35 万円

※DTP3PDF にはモノクロ版、カラー版はありません。

◆動作環境

対応 OS : Windows2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7

※文書ファイルの変換を行うアプリケーション(MS-OFFICE、DocuWorks 等)の動作環境に依存します。

◆対応表

製品名	ラスター 出力	PDF 用紙 サイズ反映	PDF 出力	DocuWorks 出力	バーコード 情報出力	PostScript 入力
DTP3PDF	×	○	○	×	×	×

GUI 操作基本画面

◆GUI からの操作

- ・プログラムを起動すると上記 GUI が表示されます。変換に必要な情報を各項目に設定していきます。設定後、実行 (OK ボタンを押す) すると変換が開始されます。処理が終了すると、設定内容に従った変換結果 (ファイル) が出力されます。
- ・各項目の情報は保存され、次回の変換にそのまま使用することができます。

KDdriver_long (PDF) for Windows

実行
属性保存
閉じる

入力ファイル名
出力ファイル名
ログファイル名

用紙サイズマージン
用紙サイズを判定するとき
使用するマージンを設定しま
す。

Officeバージョン
使用するMS-Officeのバージョ
ンを指定します。

解像度
文書内画像の解像度や座標値
の精度を指定します。

ファイル番号
開始 2
増加 2
桁数 5

PDF編集
 WEB用に最適化
用紙の回転 縦横を元の状態で変換
セキュリティの設定 セキュリティ解除設定

解像度
 ドライバ既定値
 解像度指定
DPI 400

ファイル番号
シングルページ出力や、ページ数指
定のマルチページ出力時のファイ
ル名に付加する番号を設定します。

PDFに編集を加えるかどうか
用紙の回転、セキュリティ設定や、PDF
ファイルを変換する場合、セキュリテ
ィ解除設定を行います。

シングルページ/マルチページの
出力選択

コマンドライン基本操作

基本操作は、[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]より、変換する入力ファイル名、出力ファイル名、変換に関する各種設定情報を入力して実行し、変換を行います。

>実行ファイル 入力ファイル -0 出力ファイル -各オプション

〈例〉 入力ファイル(Sample_file.doc)を変換して、指定した出力ファイル(test.pdf)に出力。

実行フォルダに属性ファイル(drv_in.atr)が存在することを確認し、以下のように入力します。

```
C:¥>DTP3PDF Sample_file.doc -0test.pdf -Udrv_in.atr -LOGtest.log
C:¥>
```

(各パラメータについて)

DTP3PDF	: 実行ファイル名。
Sample_file.doc	: 変換元の入力ファイル名(入力に対応している DTP データ)。 この例では、MS-OFFICE(WORD) データファイル。
-0	: 出力ファイル名を指定するオプションパラメータ。
test.pdf	: 出力ファイル名(PDF)。
-U	: 属性ファイル名(初期設定:drv_in.atr)を指定するオプションパラメータ。
drv_in.atr	: 属性ファイル名。
-LOG	: ログファイル名(初期設定:err.log)を指定するオプションパラメータ。
test.log	: ログファイル名。

※ インストールパスが“c:¥Program Files¥dtp3pdf”の場合、〈基本形の例〉を実行されると、それぞれ指定されたファイルは、プログラム内部で以下のフルパスに置き換えられて変換を実行します。

入力ファイル名	: Sample_file.doc	→	“c:¥Program Files¥dtp3pdf¥Sample_file.doc”
出力ファイル名	: test.pdf	→	“c:¥Program Files¥dtp3pdf¥test.pdf”
属性ファイル名	: drv_in.atr	→	“c:¥Program Files¥dtp3pdf¥drv_in.atr”
ログファイル名	: test.log	→	“c:¥Program Files¥dtp3pdf¥test.log”

【DTP3PDF のコマンドラインからの操作における標準仕様】

- 変換に関する各種設定(出力フォーマット、シングル/マルチ化、解像度、等)は属性ファイルで行います。属性ファイルとはテキスト形式のファイルで、変換に関する各種設定情報を決められた項目に従って記述します。属性ファイル(テキスト形式のファイル)の編集の代わりに GUI(画面)から設定を行うこともできます。
- 使用するプログラムについてはカレントフォルダ(現在作業中のフォルダ)に対して相対/絶対パスで指定することができます。プログラムをインストールしたフォルダで作業する場合、パス名を省略できます。変換元ファイル(入力ファイル)、出力ファイル、属性ファイル、ログファイルについても同様の扱いとなります。
- 相対/絶対パスを指定する場合においてパス名に空白(スペース)がある場合には、“” (ダブルコーテーション)を使用してください。
- 「-0」は出力ファイル名を指定するオプションパラメータです。マイナス記号とアルファベットの「オー」です。大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、「-0」と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。その他のオプションパラメータについても同様に扱います。
- 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じ名前を指定することはできません。
- エラー情報や変換状況をカレントフォルダにログファイル名(err.log)で自動的に出力します。

操 作 例

1. コマンドラインからの実行

例 1 : 絶対パスを使用して、任意の変換元ファイル“c:¥test¥infile¥Sample_file2.doc”を出力ファイル“c:¥test¥outfile¥test2.pdf”に変換して出力。

```
C:¥>DTP3PDF "c:¥test¥infile¥Sample_file2.doc" -O"c:¥test¥outfile¥test2.pdf"  
C:¥>
```

例 2 : 任意の属性ファイルを作成し、入力ファイル(Sample_file3.ppt)を出力ファイル(test3.pdf)に変換し、任意のログファイルにエラー情報や変換状況を出力。

```
C:¥>DTP3PDF Sample_file3.ppt -Otest3.pdf -Udrv_in_test.atr -LOG"c:¥log¥abcd.log"  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

drv_in_test.atr : 任意の属性ファイル名。

"c:¥log¥abcd.log" : ログファイル名(絶対パスを指定)。

※任意の属性ファイルは、初期設定の属性ファイル(drv_in.atr)をコピーしてファイル名を変更したファイルや属性ファイルに使用されているパラメータを含む内容のファイルです。

例 3 : アプリケーションのバージョン情報を出力。

```
C:¥>DTP3PDF -QV -LOGver.log  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-QV : 実行ファイル名とバージョン情報を表示するオプションパラメータ。

ver.log : ログファイル名。

※「-QV」と「-LOG」を同時に指定した場合は、指定したログファイルにアプリケーションのバージョン情報を書き出します。

例 4 : バッチファイルからの実行(フォルダ単位の拡張子による一括変換)。

バッチファイルで記述された内容の実行を実行します。

複数のファイルやフォルダ内のすべてのファイルを一括で変換する場合に使用します。

任意の名称(test.txt)で以下のようにバッチファイル(テキスト形式)を作成します。

・バッチファイルの内容

```
c:¥test_1¥*.ppt -Oc:¥out_1¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_1¥err.log  
c:¥test_2¥*.doc -Oc:¥out_2¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_2¥err.log  
c:¥test_3¥*.xls -Oc:¥out_3¥*.pdf -Udrv_in.atr -LOGc:¥log_3¥err.log
```

C:¥TEST_1 に存在する拡張子が ppt のファイルをすべて拡張子を pdf に変更したファイル名で変換します。拡張子 doc、xls についても同様の処理になります。処理の内容は同時に複数の指定を記述することができます。なお、ワイルドカード(*)が指定できるのは、入出力ファイル名のみとなります。

・コマンドライン入力と画面表示

```
C:¥>DTP3PDF -BATChtest.txt  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

-BATCh : フォルダ単位の一括変換を行うために使用するオプションパラメータ。

test.txt : バッチファイル名。

※「-BATCh」で指定された任意のバッチファイル名(test.txt)の内容に従い処理を行います。

2. コマンドラインからの実行「標準入力、標準出力、標準エラー出力」

例 1 : 標準入力にて DOC データを渡し、出力ファイル名指定 (test.pdf) で PDF ファイルに変換し、標準エラーをテキストファイルに出力。

```
C:¥>DTP3PDF < abc.doc -0test.pdf 2> err.txt  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

DTP3PDF	: 本アプリケーション。
abc.doc	: 標準入力の WORD ファイル。
-0test.pdf	: 出力ファイル名を指定。
2> err.txt	: 標準エラー出力をファイルに保存。

例 2 : DOC データを入力データとし、標準出力として PDF ファイルを出力。

```
C:¥>DTP3PDF in > out.pdf  
C:¥>
```

(各パラメータについて)

DTP3PDF	: 本アプリケーション。
in	: DOC ファイル名。
> out.pdf	: DTP3PDF の標準出力を out.pdf に出力。

注意事項) 属性ファイルで指定する拡張子と標準入力ファイルのファイル形式が異なる場合、正常に処理することができませんのでご注意ください。

変換機能

主な変換機能として、以下の設定を行うことができます。

これらの変換機能は GUI (画面) または属性ファイル (テキスト形式)、オプションパラメータから指定します。各製品により機能が異なるため使用できる項目に一部違いがあります。

- ・ シングルページ/マルチページ出力指定
- ・ 用紙サイズの自動認識指定
- ・ PDF 入力処理時、セキュリティの解除機能
- ・ 出力 PDF へのセキュリティ設定や用紙回転などの編集機能
- ・ ログファイルの出力
- ・ ページ分割の指定
- ・ バッチ処理 (フォルダ単位の拡張子による一括変換)

制限事項

DTP3PDF の制限事項

- ・ 多重起動 (本アプリケーションを同時に複数実行) することはできません。
- ・ 本アプリケーションはログインされた状態で使用してください。ログオフ状態では動作しません。
- ・ 変換対象ファイルの拡張子に関連付けされているアプリケーションから、KDdriver_long (PDF) for Windows へ直接印刷した場合に、正常に印刷を行うことが可能なファイルが必要です。印刷エラーやシステムダウンが発生する場合は、対応できません。
- ・ DTP3PDF 異常終了した場合には、属性ファイル (drv_in. atr) の内容が変わっている可能性がありますので再度実行する場合はファイルの内容を確認してください。また、アプリケーションがタスク上に残っている場合はタスクマネージャ等で終了させてください。
※タスク上に残る可能性のある、関連アプリケーションは以下のとおりです。
 - ・ infoProc. exe
 - ・ ProcTimerKill. exe
- ・ 本アプリケーションは弊社製品の KDprintdrv_batch、kddrvbatchc、KDdriver_long (PDF) for Windows を使用します。ご使用の際には、KDdriver_long (PDF) for Windows 操作説明書の注意事項もご一読ください。
- ・ 変換する文書ファイルに、マクロ機能やパスワードの入力等で何らかのダイアログが表示される場合には、変換処理が止まる場合があります。ダイアログを手動で対処するかマクロを削除して再起動してください。
- ・ 用紙規定値コードは各プリンタドライバの用紙サイズごとに設定されている値であり、インストールマシンによって異なる場合があります (A3, A4, B4, B5 等は共通です)。複数のマシンで使用する場合は各マシンで設定する必要がありますので注意してください。
- ・ サービス上で起動するとプリンタの権限が与えられていないため、本アプリケーションは用紙サイズの切り替えを行うことができませんので、設定されている規定値の用紙サイズでのみ出力可能です。
- ・ DTP3PDF でセキュリティ設定を行う場合は、KDdriver_long (PDF) for Windows のセキュリティ設定を行わないでください。
- ・ インストールマシン以外のネットワーク上のマシンから、リモート呼び出しによる変換はできません。
- ・ html や xml ファイルを変換する際は、背景として設定している画像が変換されません。関連付けされているブラウザの印刷機能を使用して印刷を行うため、ブラウザへの表示はされていても出力されない場合もあります。また、指定しているファイルに印刷アクションが設定されて無ければ変換することはできません。エクスプローラで変換したいファイルを選択し、右クリックで表示されるポップアップメニューに印刷の項目が存在することが前提です。
- ・ Visio2003 ファイルを変換する際、正常に変換できない場合があります。正常に印刷できない場合は、一度 Visio ファイルを開きファイルメニューの印刷で印刷ダイアログを表示し、プリンタのプロパティ詳細設定の設定を行ってから、再度変換を行ってください。
- ・ Acrobat X 以降用の PDF データについては対応していません。
- ・ シングルページでの標準出力を行った場合、先頭の 1 ページのみが標準出力されます。

- ・ ページ番号を指定して変換することはできません。全ページが変換されます。
- ・ -0 で指定するフォルダは、既存のフォルダを指定してください。
- ・ 属性ファイルで指定する拡張子と標準入力ファイルのファイル形式が異なる場合、正常に処理することができませんのでご注意ください。
- ・ WAIT で強制終了された場合、変換データに関連付けされたアプリケーションが起動されたままになることがありますので、手動にて終了させてください。
例) DOC : Word. exe
- ・ DTP3PDF 動作中に LOG ファイル等の関連ファイルへのアクセス(参照、コピー等)は行わないでください。
- ・ 変換を行うマシンとは別のマシンで作成した、用紙サイズが A3 以上の Visio ファイルを変換すると分割されて出力される場合があります。
- ・ Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用されるすべてのソフト・ドライバの複合要因であり、このような現象が発生した場合、原因の特定および回避はすべてのアプリケーションが関係するため、対応が不可能です。長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生することがありますので、定期的に Windows の再起動を奨励致します。
- ・ ファイル変換する文書ファイルの対象となる MS-OFFICE のアプリケーションは、事前に終了させておいてください。また、変換中にも MS-OFFICE のアプリケーションを起動することはできません。
- ・ MS-POWERPOINT のアプリケーションの初期表示をフルスクリーン表示すると、変換時にアプリケーションが画面上に表示されますので、フルスクリーンの設定をオフにしてください。
- ・ 変換する文書ファイルがインストールされている MS-OFFICE のバージョンと異なる場合は、上位のバージョンの MS-OFFICE をインストールしてください。ただし、バージョンの違いにより正常に変換されない場合もありますので注意してください。
- ・ MS-OFFICE のアプリケーション上で発生したエラーについては対応していません。タスクマネージャから処理を中止してください。
- ・ データの存在しないファイル(空のファイル)を変換することはできません。
- ・ MS-WORD のファイルは、保存されているレイアウト(印刷レイアウト/アウトライン等)で変換されます。また、印刷ダイアログの「印刷対象」の設定が「文書」以外に設定されているファイルを変換した場合は、変換を行う際の設定(「印刷対象」=「文書」で固定)と異なるために変換結果が実際の印刷結果と異なる場合があります。
- ・ ファイル属性のアーカイブ情報の設定がされていない場合には、変換されません。
- ・ 本アプリケーションを起動中に、新たに MS-OFFICE を起動することはできません。起動した場合には、エラーになる場合があります。
- ・ 変換(印刷)中に処理を途中でキャンセルすることはできません。また、変換(印刷)中には、他のオペレーション等は行わないでください。エラーが発生する場合があります。
- ・ MS-OFFICE 2003 以降で作成されたアクセス制限が設定されたファイルを変換することはできません。
- ・ 文書ファイルに「読み取り専用」の属性が設定されている場合には、属性を無効にする必要があります。
- ・ MS-EXCEL ファイルのページ設定の印刷品質が空白(通常はプリンタの解像度が表示)になっているファイルについては、変換時にエラーが発生する場合や正常に変換されない場合があります。エラーが発生した場合には、印刷品質の解像度を設定して保存してから変換を行ってください。
- ・ MS-OFFICE 2007 以降の文書ファイル(docx, dotx, docm, dotm, xlsx, xltx, xlsxm, xltxm, pptx, potx, pptm, potm)を変換する場合には、変換対象ファイルを開くことが可能であり、印刷が可能であるバージョン(MS-OFFICE 2007 以降)がインストールされている必要があります。
- ・ MS-EXCEL ファイルを変換する際には、変換するシート名を指定することはできません。

- ・ MS-POWERPOINT のアプリケーションの印刷処理は、プリンタドライバの規定値の用紙サイズで印刷を行う仕様のために、変換結果のラスターファイルもプリンタの既定値の用紙サイズで変換されます。
- ・ 変換結果については、変換時に使用した各アプリケーション(MS-OFFICE 等)の印刷処理に依存します。したがって、各アプリケーションから変換元のファイルを KDriver_long (PDF) for Windows 経由で印刷を行った際に、正常に変換されている必要があります。
- ・ 変換されたラスターファイルの内容については、変換を行った際に使用した各アプリケーションで変換時に使用した KDriver_long (PDF) for Windows で印刷した結果に依存します。変換結果に問題がある場合には、文書ファイルを各アプリケーション(MS-OFFICE 等)で開いて KDriver 経由で印刷を行い、変換されたファイルを確認してください。
- ・ 変換環境に複数の MS-OFFICE バージョンが共存している場合、動作保証できません。